

初の中止に

来年2月
予定

延岡西日本マラソン

新型コロナ安全確保困難と判断

今年「ひよつと」マラソン
今年に続き2年連続

延岡西日本マラソン実行委員会は、来年2月14日に開催予定していた第59回延岡西日本マラソンの中止を決めた。16日に発表した。新型コロナウイルス感染症の見通しが今後、より厳しくなることが見込まれるため判断した。中止は1963年の大会開始以来初。

とし、日向市原町で折り返すコースで沿道を入勢の市民が埋め尽くし、地元勢も含め県外からの出場者に熱い声援を掛けるなど、この時期の定番

風物詩にもなっていた。それだけに大会中止を残念がるファンも多い。同実行委は、大会を安全確保が困難であると判断。残念ながら中止す

ランナーをはじめ、医療関係者、ボランティアスタッフ、市民など大会に関わるすべての皆さまの安全確保が困難であると判断。残念ながら中止す

日向ひよつとマラソンIN日向市実行委員会、日向市お倉ヶ浜総合公園を発着点とするコースで来年3月に予定していた第26回大会の中止を決めた。新型コロナウイルス

ルスの感染拡大が懸念されるため。参加者やボランティアスタッフなど関係者の安全面を考慮した。開催中止は今年3月の第25回大会に続き2年連続となった。



スタート直後、延岡市中町を走るランナー（今年2月9日撮影）

同マラソンは福岡国際マラソン、別府大分マラソンとともに九州三大マラソンとして位置付けられている。その中でも、全国から新進気鋭のランナーがエントリーする新人の登竜門的な大会として知られ、毎年約7000人ほどの参加者がある。実行委員など大会関係者は、なんとか開催ができなにか、規模を縮小することなども含めて協議してきたが、感染症の専門家や医師の意見を参考にして中止と判断した。延岡市役所前を発着点

宮銀アボカド 出荷前にPR 副知事の「濃厚。輸入品とは別物」

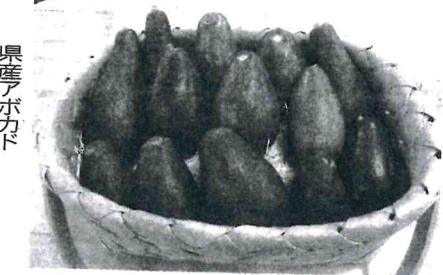


宮崎銀行が設立した農業法人「夢逢いファーム」(宮崎市吉野)で、県産アボカドの初出荷準備が進められている。16日は、緒方省吾社長らが県庁を訪れ、郡司行敏副知事にPR。試食した郡司副知事は「森のパター」と言われるだけあって濃厚。輸入品とは別物で、

国産の夢が実現できるよう応援したい」と語った。同ファームは、同行

が地方創生、農業振興を目的に2017年に設立。出向社員が県内2農場で、アボカドとキウイフルーツの生産に取り組んでいる。アボカドは17年11月に112本の苗を定植。昨年度約5000個が初収穫され、今年は今現在約13000個が実っている。緒方社長は「そのまま食べられるほど、クレーミーで香り豊か。なんとか2年連続で実を付けることができ

たと感想を話していた。国内で消費されるアボカドはほとんどがメキシコなどからの輸入品。ハウスで作る県産アボカドは輸入品に比べ2倍以上の大きさ。同ファームは、同行と販売戦略を練り、1個数千円の高級果実として、県外のレストランなどに特売するなど、「ビジネスモデルを築き上げた」としている。出荷時期は来月から来年3月31日まで。宮崎市の農場は、今月には10坪だったハウスを2倍に増築。苗を当初の5品種から7品種に増やすなど、試行錯誤を重ねているという。



県産アボカド